

ノルウェー: 政府のインセンティブで電気自動車が急速に普及¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット

新エネルギーグループ

ノルウェーでは近年、政府の手厚い奨励策によって電気自動車（EV）の普及が急速に進んでいる。

報道によれば、今年 9 月にノルウェーで販売された自動車の 14.3%、およそ 7 台に 1 台が EV であった。8 月末に約 3 万 2,000 台だった EV の走行台数は、10 月半ば時点で約 3 万 4,000 台にまで増えている。政府は 2017 年までに 5 万台の EV 導入を想定していたが、現在のペースだと 2015 年の初めにもその数字に到達しそうな勢いだ。国民一人当たりの EV 所有台数は世界一である。

販売台数の内訳²を見ると、日本車の健闘が目立っている。9 月のトップはニッサン・リーフ（367 台）、2 位はフォルクスワーゲン・ゴルフ（270 台）、3 位が三菱アウトランダー（192 台）であった。しかし、9 月までの年間売上（YTD）では、首位のリーフ（3,745 台）を米テスラ社の Model S（3,535 台）が僅差で追っている。およそ 8 万ドルからの高価格帯にもかかわらず、テスラがこれほどよく売れていることは注目に値する。

ノルウェーの EV 市場が急成長を遂げている最大の要因は、政府が提供している数々のインセンティブにある。EV は輸入関税、購入時の自動車登録税、および 25% の付加価値税（VAT）（消費税に相当）を免除されるだけでなく、毎年徴収される道路使用税も減免される³。通常は、諸税を入れると販売価格は車両本体価格の 1.7~2 倍ほどにもなるため⁴、免税の恩恵は大きい。前述のテスラ車も、大幅な免税を考慮すると買得感はかなり高くなる。

それだけではない。ノルウェーでは EV は高速料金が無料になるほか、公共パーキングスペースやカーフェリーも無料で利用できる。また、街中には無料の EV 充電設備が多数設置

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外省エネ等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² ソース：

<http://sustainnovate.ae/en/industry-news/detail/electric-car-sales-make-up-14-of-car-sales-in-norway-in-september>

³ http://emc-mec.ca/files/Electric_Mobility_Canada_2008_open.pdf

⁴ 一例（メディア試算）として、2 万 1000 ユーロ（約 310 万円）クラスの小型スポーツ多目的車（SUV）を買うと、登録税 7,500 ユーロ、付加価値税 5,250 ユーロ、および廃車費用がかかり、価格は 3 万 5000 ユーロに跳ね上がる。しかし、同サイズのニッサン「リーフ」は 2 万 9000 ユーロほどで購入できる。

されている。さらに、EV は通常のレーンではなくバスレーンの走行を許可されている。これらの優遇策が、経済性と利便性の両面で EV の普及を後押ししている。

一方で、EV の急増による予想外の問題も発生している。最近、首都オスロでラッシュ時に夥しい数の EV がバスレーンを占拠し、交通渋滞を引き起こしている状況が報じられた。こうした飽和状態に対して、インセンティブの廃止を求める声も出ている。皮肉な現象ではあるが、規則の整備が追い付かないほど短期間に EV が急増したことの表れと言えよう。

ノルウェーは、北海油田を有する欧州有数の産油国でありながらクリーンエネルギーの利用にも力を入れている。全発電量に占める再エネの比率（水力を含む）は 96%にも達しており、政府や国民の環境意識の高さが見てとれる。実際、ノルウェー電気自動車協会の調査によると、27%の EV オーナーが環境への配慮を購入の理由に挙げた。一方で、48%のオーナーは節約を主な理由に挙げており、補助金の果たす役割が大きいことがうかがえる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp